

2017年11月吉日

言論NPO設立16周年記念フォーラム・パーティーのご案内

平素より、言論NPOの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、総選挙も終わり、私たちは次の大きな課題に取り組んでいます。

それは、不安定化する世界の自由秩序や北東アジアの平和、そして試練を迎える日本の民主主義に真正面から取り組むことです。

そうした決意を多くの皆さんと固める場として、言論NPOの設立16周年の今年、その設立日である11月21日に私たち言論NPOのアドバイザーボード10氏が音頭を取り、記念フォーラムと16周年のパーティを開催することとしました。

今回、ご連絡させていただいたのは、その場に是非とも、ご参加いただきたいからです。

歴史的な試練にどう立ち向かうのか、それが言論NPOの最大の課題です

今年の3月、私たちは日本では初めてグローバル課題の解決を目指す、世界的な議論のプラットフォーム「東京会議」を立ち上げました。戦後の自由、民主主義、そして多国間主義に基づく世界秩序が不安定化する中で、その規範を貫く日本の発言は極めて重要なものになっているからです。

緊張を深める北朝鮮の核の脅威は、この北東アジアに平和秩序を作り出すための歴史的な課題です。今年4月から、言論NPOは中国、韓国と議論を進め、そして今月末、日本と米国の新しい対話を立ち上げました。こうした対話を進め、多国間での協議メカニズムをつくらうとしているのは、北朝鮮の核問題の解決と北東アジアの平和に向けた作業を開始するためです。

そしてそれ以上に私たちが強い危機感を抱いているのは、言論NPOの設立時にミッションに掲げた民主主義そのものです。先に実施した世論調査でも、日本やインド、インドネシアといったアジアの民主主義国では選挙で選ばれる政党や国会、さらには言論や知識層への信頼が大きく低下し、この日本では6割近い人が、この国の課題解決を政党に期待することはできないと回答しています。

北朝鮮の核保有と戦争の危機に直面する日本、不安定化する世界秩序、さらに自分たちが選ぶ政党に将来を託せないという民主主義への懐疑。こうした歴史的な試練に私たちはどのように立ち向かうのか。

11月21日に開催する言論NPOの16周年の記念フォーラムとレセプションは、言論NPOがそうした歴史的な課題の解決に立ち向かう新しいスタートとなる場なのです。

国内外の課題を議論するプラットフォームを目指して

この日は、試練に直面する民主主義や世界の平和秩序、日本の将来を真正面から議論するため、世界を代表する複数の論客や国内の有識者が集まります。

言論NPO自身もそうした課題を議論するプラットフォームとしてより機能できるよう、組織を鍛え直さなくてはなりません。3年後、言論NPOを米国の外交問題評議会のような言論カウンシルに発展させようとしているのもそのためです。

ご多忙であることは重々承知致しておりますが、是非とも私たちの強い決意にご理解いただき、ご出席を賜りますよう、お願い申し上げます。

言論NPO代表 工藤泰志

【発起人】

明石康、大橋光夫、小倉和夫、川口順子、長谷川閑史
藤崎一郎、増田寛也、宮本雄二、武藤敏郎、茂木友三郎